

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		高岡市きずな子ども発達支援センター（児童発達支援事業）				公表日	令和8年 3月 3日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	10	0	・定員に対する保育室の広さは基準を満たしている。	・活動内容によって、座席の配置などスペースを確保し活動に取り組んでいく。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	10	0	・サブ保育士の配置により、子どもの状態や職員の数に合わせて対応できるようにしている。 ・室内の環境設定を工夫している。	・活動場所が他グループと重ならないよう、職員間で事前に打ち合わせを行い、使用時間の調整をする。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	10	0	・スケジュールを個々に合わせて提示したり、視覚支援を用いたりしながら、見通しを持ち安心して過ごせるよう心がけている。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8	2	・設備の老朽化を感じる。 ・センター内の清掃、遊具の清拭を行っている。また、センター内の設備や遊具の破損などを発見次第報告し、修繕を行っている。 ・清掃や整理整頓に努めているが、老朽化に伴い不具合が生じることもあるが、その度修繕を行っている。	・指導前に子どもたちが心地よく安全に過ごせる環境か点検し、環境を整える。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	9	1	・気持ちが高ぶり、クールダウンが必要な場合は空いているスペースを利用することがある。 ・パーテーションを利用し、落ち着いて過ごせるスペース作りに配慮している。	・突発的にスペースが必要となった時は、空き部屋の状況を速やかに確認し、柔軟に対応する。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	8	2	・日々の療育を振り返り、改善を考える場を設けている。 ・指導内容や対応に悩んだ時は同僚や上司に相談している。	・職員が主体的に討議の場に参加し、日々の支援の改善が図れるよう都度PDCA サイクルを継続する。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9	1	・保護者向け評価を毎年実施し、改善に努めている。	・活動のねらいや指導の意図について保護者に分かりやすく伝えるよう努めていく。 ・職員間で活動のねらいや一人一人に応じた個別配慮を確認、共有し、保護者に適切に伝えるよう努めていく。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	2			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。					

	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	10	0	・ 育成科研修を毎月行っている。外部の研修にも参加し、自己研鑽に努めている。	・ 職場内の研修に留まらず、外部の研修にも積極的に参加し、職員各々が自己研鑽をすることで資質の向上に努めていく。 ・ 外部講師に依頼し、スキルアップ研修を行っていけると良い。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	10	0		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	10	0	・ アセスメントを行い、計画作成を行っている。 ・ 日頃から保護者と話す機会を設け、保護者の気持ちに寄り添い、保護者ニーズに応えていけるよう努めている。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	9	1	・ 子どもの姿や保護者の思いと職員の思いとをすり合わせ、計画を作成している。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	10	0	・ 計画内容を担当職員で把握し、ねらいを意識し療育を行なっている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	10	0	・ センター独自のアセスメントツールを使用して、発達状況を確認している。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	10	0	・ 保護者、支援者に分かりやすいねらいと支援内容を考え、具体的な支援を設定できるよう心がけている。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	10	0	・ グループ指導では、担当者と活動のプログラムを立案している。	・ 子どもたちの状況、段階に合わせた活動設定に努めていく。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	10	0	・ 療育開始当初や不安が強いお子さんには、活動の流れをある程度固定化し、見通しを持ち安心できるようにしている。 ・ 季節や子どもの興味に合わせた活動を取り入れている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	10	0		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	10	0	・ 活動内容を職員間で周知し支援を行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	10	0	・ 振り返りを行い、次回の指導内容に生かせるようにしている。 ・ クラスの職員と振り返りや反省をした上で、判断や考えに迷った時には、同僚や上司に相談できる雰囲気整っている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	10	0	・ 子どもの姿、活動内容、懇談内容を記録にとり、成長の様子を確認している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	10	0	・ 3～4か月ごとに懇談を行い、支援計画の見直しを行っている。	
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	10	0	・ 担当者が参加している。	

関係機関や保護者との連携	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	10	0	・必要に応じて、各関係機関と連携を行っている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	10	0	・必要に応じて、各機関と連携を行っている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	10	0	・必要に応じて、各機関と連携を行っている。	
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)	10	0		
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	0	10	・外来保育を利用している多くの子は地域の園に通っている。在宅の方は、地域の支援センターやサロンに参加することを勧めている。	
保護者へ	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	10	0	・日頃の療育の中で、保護者と子どもの姿について話し、情報を共有する機会を設けている。 ・指導の中で、家庭や園での様子を聞き、必要に応じて相談できる場を設けている。	・保護者と話す機会をもつように努めているが、ねらいの伝え方に難しさを感じている。研修や職員間で話す場を設け、理解を深めてく。 ・活動のねらいは、口頭や掲示板で保護者に知らせている。活動中の関わりの意図や保護者の方にも取り組んでいただきたいポイントなどを、どの職員も分かりやすく伝えられるよう、共通理解を図っていく。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	10	0	・センター内でペアレントトレーニングの講座を開催している。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	10	0	・契約時に説明している。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	10	0	・お子さん、保護者に同席してもらい、意向を確認している。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	10	0	・支援計画を保護者に開示説明し、同意を得ている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	10	0	・保護者に寄り添い、保護者が家庭で実践できそうな支援を提案するよう心がけている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	0	10	・外来保育は保護者会を設けていない。	

の 説 明 等	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	10	0	・相談内容によっては、各職員が連携し、対応できるよう努めている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	9	1	・外来保育利用者向けに定期的な便りは発行していないが、ホームページに活動概要等の情報を掲載している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	10	0	・個人情報取り扱いの管理の徹底を行っている。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	10	0	・視覚支援ツールを用いた支援を行っている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	0	10	・外来保育には、地域の方と交流する行事はない。	
非 常 時 等 の 対 応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	10	0	・センターの玄関に各マニュアルを掲示している。 ・保護者を交えた訓練を毎月行っている。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	10	0	・業務継続計画（BCP）を策定している。 ・避難訓練は毎月実施している。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	10	0	・契約時に確認を行っている。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	10	0	・契約時に確認を行っている。 ・おやつ提供時には、給食室、外来保育の担当者、保護者と確認して、誤配膳がないように心がけている。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	10	0	・安全に支援を行うため、事故発生を想定したシミュレーションを実施している。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	10	0	・契約時に安全計画について周知している。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	10	0	・ヒヤリハットがあった場合は、再発防止策を含め報告書を作成し、科内のミーティングで報告、報告書の回覧を行っている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	10	0	・虐待防止委員会を設置している。職員にセルフチェックを行い、日々の対応を振り返っている。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	10	0	・個別支援計画の説明を行う際に、身体拘束に関する説明も行っている。	